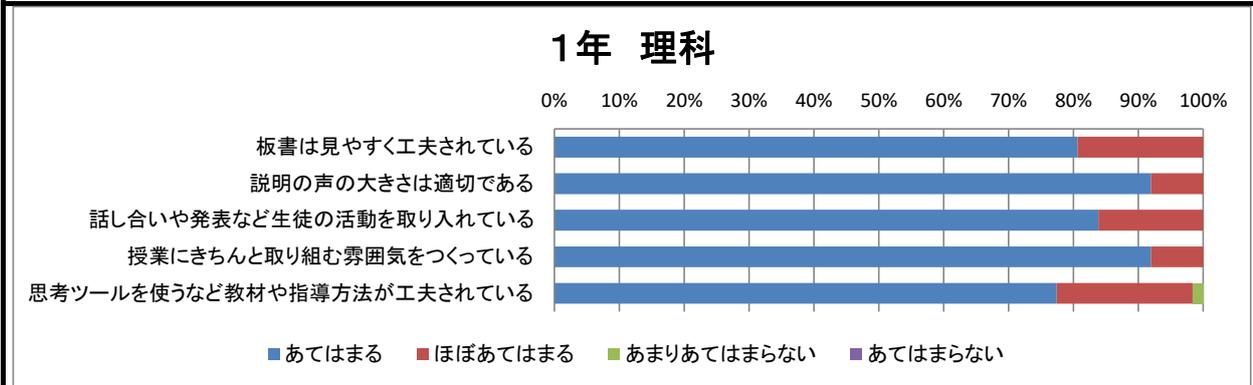


令和元年度 第2学期 生徒授業評価アンケートより

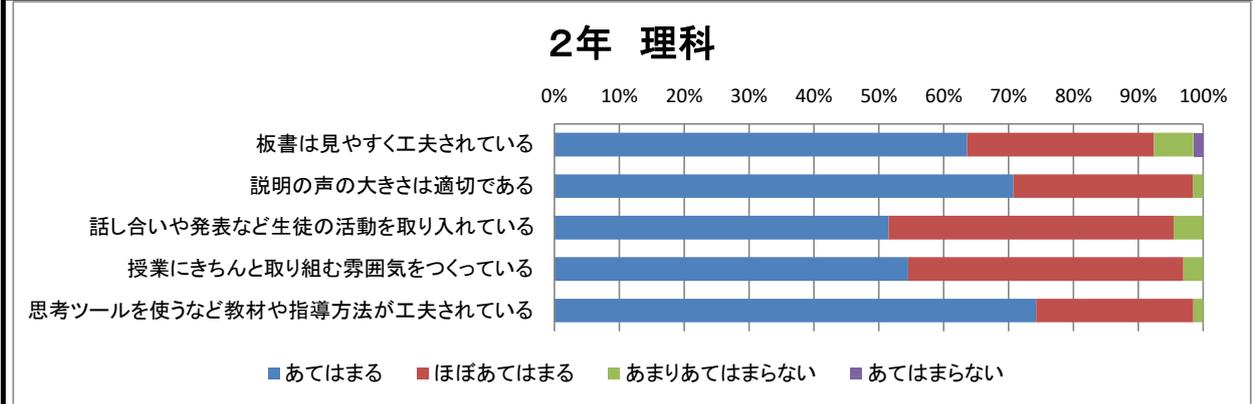
教科	理科	重点目標	・観察や実験を通して、自然の事物や現象についての問題を科学的に理解し、解決するための能力や資質を養う。
----	-----------	------	---

学習指導に関する現状と課題(二学期・生徒による授業評価アンケートより)



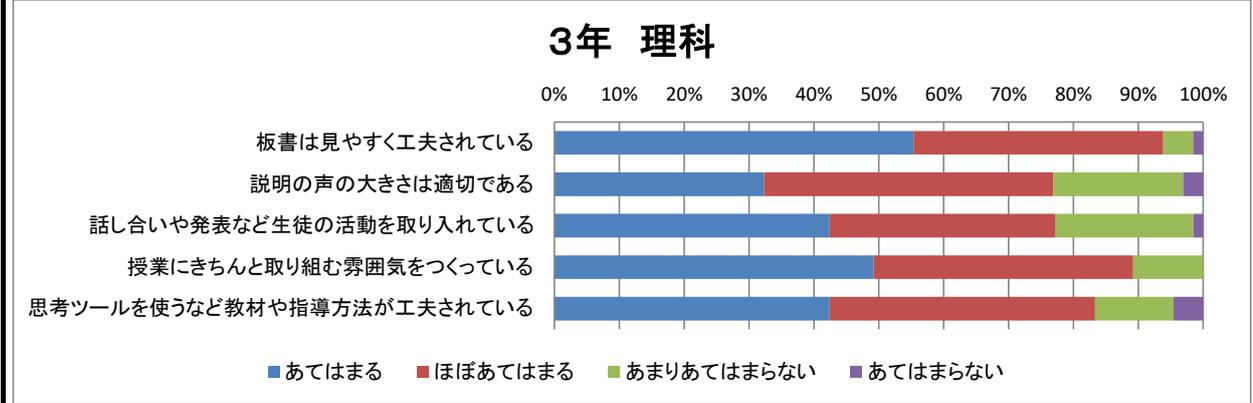
分析

1学期同様の評価を得ることができた。板書をパワーポイントを用いてプロジェクターに映し出し、見やすい状況を作れた。作図の板書もパソコン上で行ったことにより、教員の背中で作図の様子が分からなくなることがなくなり、授業についてこれる生徒が増えた。板書の時間を短縮できた分、話し合いの時間をとることができ、授業に積極的に取り組む生徒が多かった。思考ツールやホワイトボードを使い、教材も工夫できた。



分析

- ・全ての項目で「あてはまる」、「ほぼあてはまる」が90%を超えており、生徒は授業を満足して受けられていると考える。
- ・話し合いや発表などの活動では「あてはまる」の割合が低かったため、思考ツールを活用しつつより話し合いが深まるような指導をしていく。
- ・板書はパワーポイントメインなので、フォントをなるべく大きめのものを使い、見やすい色を使うように心がける。
- ・日常生活に即した実験や考察を取り入れ、理科の楽しさを伝えていく。



分析

- ・受験を意識した授業になってしまいゆっくり時間をかけた「話し合いや発表活動」の実践が数多くできなかった。教えすぎない生徒の主体的な活動を待つことができず、つい教え込みになってしまうことが多かったため、授業計画を見直し余裕をもって取り組んでいきたい。
- ・「板書」について、色チョークを駆使して、思考ツールを取り入れることを心掛けた。授業時間中は「板書」を消さずに残しておくことで生徒の理解が深まっているように感じたが、授業後の定着が芳しくなかった。生徒が「板書」事項をノートに書き写すのではなく、論理的な思考を書き留めるような「ノートの書き方指導」の必要性を感じた。次学期は生徒が板書事項を取捨選択しながら、自分の理解に応じて自分オリジナルのノートを作っていく技法を身につけさせたい。